

故岩井勝二郎教授略歴

明治十九年二月十七日 福井縣敦賀郡敦賀町ニ出生  
 明治四十三年三月三十日 廣島高等師範學校本科數物化學部卒業

明治四十三年四月三十日 兵庫縣立第二神戸中學校教諭ニ任セラル

大正三年八月十八日 校務ノ都合ニヨリ休職トナル

大正三年九月十一日 京都帝國大學文科大學哲學科入學

大正六年七月十三日 京都帝國大學文科大學哲學科卒業

大正六年九月八日 京都帝國大學大學院入學

大正七年三月三十一日 京都帝國大學文科大學副手囑託

大正九年十月十二日 京都帝國大學助手ニ任セラレ、文學部勤務ヲ命ゼラル

大正十年七月二十二日 京都府立醫科大學講師囑託

大正十一年四月十日 京都帝國大學助手依願免官、京都帝國大學文學部講師囑託

昭和三年三月二十四日 京都帝國大學大學院退學

昭和三年十二月二十四日 心理學研究ノ爲滿二ヶ年間獨逸國へ在留ヲ命ゼラル

昭和四年二月六日 京都帝國大學助教授ニ任セラレ文學部勤務ヲ命ゼラル

昭和四年三月十四日 京都出發、神戸ヨリ獨逸國ニ向フ

昭和四年十二月二十三日 伊太利國及合衆國ヲ在留國ニ追加セラル

昭和六年六月十一日 歸朝

昭和十一年七月二十七日 滿洲國へ出張ヲ命ゼラル

昭和十一年九月九日 歸學

昭和十二年十一月一日 京都帝國大學教授ニ任セラレ文學部勤務、心理學講座分擔ヲ命ゼラル

昭和十二年十一月二日 午前五時自宅ニ於テ逝去

岩井教授逝去 十一月二日午前五時豫て療養中なりし本會委員岩井勝二郎教授逝去さる。氏の心理學に對する熱意と造詣とは、人の齊しく畏敬する處なりしに、天君に齡を假さず、遽に白玉樓中の人となられしこと、氏の爲又學界の爲惜みても餘りあり。先に本會講演に際して「ライブチヒの心理學」の題下に懇切なる教示を賜はりしこと、今茲に顧みて轉た感慨に堪へず。謹みて哀悼の意を表す。